

一般質問



消防団員募集 PR 活動

大豆生田 春美 議員 消防団員の確保について

質問(大豆生田春美議員) 消防団員確保のための市の取り組みについて伺います。

答弁(消防長) 消防団員は、昭和20年代の200万人から平成23年には87万9千人まで減少しました。今後も、少子高齢化や産業、就業構造の変化により、全国的に消防団員の減少傾向が続くものと思われます。

本市においても、条約定数1039人に対して、本年12月1日現在907人であり、充足率は87.3%であります。

消防団員の確保については、消防団の重要性や消防団活動の成果等の浸透を図るため、各地区の秋祭り等に参加し、消防団ふれあい広場を開催するなど積極的に必要性のPRを行っています。また、8月には、黒羽 佐久山の花火大会において、消防団員募集のメッセージ花火の打ち上げも行いました。

消防団員の減少要因は就業形態が大きく変化したことにより、以

前は農林業などの自営業者が多くを占めていましたが、現在は被雇用者団員、いわゆるサラリーマン団員が78%を超えています。地域によっては、昼間に消防団員が数名しかいないという部もあり、昼間の災害や大規模災害に限定した退職団員の方々の知識や技能を生かした支援活動をいたたく、機能的消防団員の導入についても、消防団の意向も踏まえながら十分な協議を進めたいと考えています。

また現在、平成26年度の女性消防団員の採用に向けて例規の整備や予算計上等の準備を進めています。今後も引き続き消防団員募集の広報活動を積極的に行っていきます。

小池 利雄 議員 雑誌スポンサー制度について

質問(小池利雄議員) 図書館における雑誌の購入状況及び雑誌スポンサー制度の導入について伺います。

答弁(教育部長) 雑誌コーナーは、大田原図書館と黒羽図書館に設置しており、担当職員が読者の利用状況を見ながら雑誌の購入をしています。大田原図書館では、月刊誌、週刊誌を合わせて116種類、黒羽図書館では52種類の雑誌を購入しており、年間購入費は165万円、昨年度の貸し出し実績は2万4200冊となっております。

雑誌スポンサー制度の導入については、市民や企業の協力を得て雑誌を購入してもらうかわりに、その雑誌の表紙カバーに企業名や広告を掲載するもので、この方法は、図書館内での広告というもので、広告範囲は限られるものの、広告料金が雑誌の費用分だけ比較的安価に宣伝が行うことができるため、スポット広告として有効です。さらに、スポンサーが増えれば、新たな財源が確保され、その分

を別の図書の購入に充てることができ、利用者のサービス向上につながります。

県内の導入状況は、宇都宮市等で実施しており、宇都宮市の場合、今年度のスポンサーは9社で、22種の雑誌に広告が掲載されています。この制度については、企業や市民が参加できる支援であり、図書館サービスの向上はもちろんだ、地域での図書館の存在感を高めることができると思われますので、各地の詳細な状況を調査し課題等を研究しながら、来年度に実施する図書館指定管理者公募の募集要項に取り入れたいと考えています。



大田原図書館の雑誌コーナー